

勿令寢ナスナこれらを合せて心得べし、寐ヌスてふ言は、那奴泥ナヌチと活くなり略。又伊イと云も寐ヌスことなるを、寐イ乎安宿ヤスクスル宿毛イモ不寢ネなど、重ねて云も常なり、

〔古事記上〕爾其ニ后ニ取取大御酒坏大御酒坏立依指舉立依指舉而歌曰略。阿夜加岐能布波夜賀斯多爾略。中麻マ傳マ多麻マ傳マ佐斯麻岐毛マ那賀マ邇伊遠斯那世略。下

〔日本書紀三〕神武ニ戊午年六月天皇適寐忽然而寤之曰予何長眠若此乎、

〔萬葉集一〕雜歌一大行天皇幸于難波宮時歌

倭戀寐之不所宿爾情無此落崎爾多津鳴倍思哉、

〔土佐日記〕廿日正月承平五年夜はいもねずはつかの夜の月いでにけり、

〔十訓抄六〕藤原相如は粟田殿はかなく成給にけるを歎て、うちぬることもせられざりければ、

夢ならで又もあふべき君ならばねられぬいをも歎かざらまし、とよみて程なく失にけり、

〔書言字考節用集八〕言辭八意意熱熱睡睡

〔名物六帖〕人事四體勢作用四。寤ヨク寢チイル童童上上冷齊夜語冷齊夜語。熟ヨク寐チイル柳宗元柳宗元讀書詩讀書詩、倦倦極極。熟ヨク寢チイル伺伺帝帝熱熱寢寢、

〔日本書紀十〕雄略四年康八月穴穗天皇康安意將沐浴幸于山宮略。中既而穴穗天皇枕皇后膝、晝醉

眠臥於是眉輪王伺其熟睡而刺弑之、

〔枕草子八〕うつくしきもの

おかしげなるちごのあからさまにいただきて、うつくしむほどに、かひつきてね入。たるもらうたし、

〔早雲寺殿廿一箇條〕一ゆふべには五ツ以前に寢しづまるべし、夜盜は必子丑の刻に忍び入者也、

宵に無用の長雜談、子丑にねいり、家財をとられ損亡す、外聞しかるべからず、

〔日本書紀十七〕七年九月勾大兄皇子略。安親聘春日皇女略。中乃口唱曰略。中矢自矩矢盧宇魔伊禰略。